

平成 28 年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

生 活

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 28 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるの
で注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても
無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったり
してはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出
てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。 (悪い例) ⊗ ⊗ ⊕ ⊙
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

以下の問いでは、「小学校学習指導要領」とは「小学校学習指導要領(平成20年文部科学省告示第27号)第2章 第5節 生活」を指し、『小学校学習指導要領解説』とは『小学校学習指導要領解説 生活編』(平成20年8月)を指すものとする。

問1 次の文章は、『小学校学習指導要領解説』の「第1章 総説 2 生活科改訂の趣旨 (1)改善の基本方針」の抜粋である。文中の四つの下線部のうち、誤りのある記述はいくつあるか。下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第3は、「児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育を充実することや人間の多様さ、生命の尊さを実感する学習活動を充実する。また、小学校における教科学習への円滑な接続のための指導を一層充実するとともに、幼児教育との連携を図り、異年齢での教育活動を一層推進する」ことである。

近年、児童を取り巻く社会状況が大きく変化してきている。その結果、異年齢の子供と触れ合う経験が極めて少なくなってきたことや、生命の尊さを実感できていない児童がいるという状況が生まれてきている。また、学校の登下校において、低学年児童が事件や事故に巻き込まれるなど、安全面への不安も増大している。こうした中、生活科においても安全教育や生命に関する学習活動を充実することが求められている。

- ア 一 つ
- イ 二 つ
- ウ 三 つ
- エ 四 つ

問2 「小学校学習指導要領」の「第1 目標」には、「具体的な活動や体験を通して…」とある。生活科における「具体的な活動や体験」とはどのようなことか、生活科の目標の趣旨に照らして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 調べる、測る、試す、観察する
- イ 見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ
- ウ 考える、分かる、思う、確かめる
- エ 解き明かす、押し畳る、選ぶ、まとめる

問 3 『小学校学習指導要領解説』の「第2章 生活科の目標 第1節 教科目標 2 教科目標の趣旨 (3)自分自身や自分の生活について考えること」には、自分自身への気付きとして3点が挙げられている。次の文中の ～ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第1は、 になじみ、集団における自分の存在に気付くことである。

第2は、自分のよさや得意としていること、また、 をもっていることなどに気付くことである。

第3は、自分の の成長に気付くことである。

	A	B	C
ア	学校生活	興味・関心	能力
イ	集団生活	興味・関心	心身
ウ	集団生活	意欲	心身
エ	学校生活	意欲	能力

問 4 「小学校学習指導要領」の「第1 目標」には、「自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」とある。生活科において身に付けさせる「生活上必要な習慣」とはどのようなことか、生活科の目標の趣旨に照らして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア いろいろな植物の栽培を通して、児童自身の力で確実に花を咲かせたり果実などを実らせたりすることができる。

イ いろいろな道具を使う活動を何度も繰り返す中で、個々の道具の使い方を確実に理解して使うことができる。

ウ お金の大切さを知り、有効に使うことができる。

エ 遊びのルールを守り、道具の準備や片付け、整理整頓^{とん}ができる。

問 5 『小学校学習指導要領解説』の「第 3 章 生活科の内容 第 1 節 内容構成の考え方 4 内容の構成要素と階層性」において三つの階層が示されている。第 2 の階層は、「自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容」である。この階層に記述されていない内容を、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 季節の変化と生活
- イ 動植物の飼育・栽培
- ウ 家庭と生活
- エ 生活や出来事の交流

問 6 『小学校学習指導要領解説』の「第 1 章 総説 2 生活科改訂の趣旨 (2)改善の具体的事項」には、「(ウ)中学年以降の理科の学習を視野に入れて、児童が自然の不思議さや面白さを実感するよう、…学習活動を充実する。」とある。生活科では中学年以降の理科学習につなげるために、児童にどのような活動を行うよう配慮していく必要があるか、その活動として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 動くおもちゃを工夫して作って遊ぶ活動、ものを水に溶かして遊ぶ活動、風を使って遊ぶ活動
- イ 1 日の気温の変化の様子を調べてグラフに表し、様々な天気の日々のグラフを比較する活動
- ウ 花の実のつくりなどを観察し記録したり、四季の環境と生き物の関係を調べたりする活動
- エ 校庭や近くの公園などで、そこに生息している生物の様子を調べる活動

問 7 「小学校学習指導要領」の「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕 2 内容

(1)には、「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにする」とある。そこで、児童が自分の学校の施設を利用したり、自分の学校のよさを感じたり、人々とのかかわりを深めたりしながら、学校生活を豊かに広げ、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするため、「学校探検」をすることにした。この活動を進めるに当たっての教師の配慮事項として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 入学したばかりの1年生のため、児童の興味や関心よりも安全を優先し、児童が安心して探検できるよう教師が主導してコースを設定する。
- イ 2年生や他の学年の児童に1年生を引率してもらうことも意義があるが、年度初めでもあり、他の学年に負担をかけないことにも配慮して、1年生だけで実施する。
- ウ 児童が主体的に活動し、満足感・成就感を実感できるよう、できるだけ児童の思いや願いを大切に活動を設定する。
- エ 児童に新鮮さや驚きなどを感じさせるために、学校のいろいろな場所や施設、他の学年の児童とのかかわりなどは、探検をするまで我慢させる。

問 8 『小学校学習指導要領解説』の「第3章 生活科の内容 第2節 生活科の内容 (4)」について述べた次の文中の ～ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

児童にとって、最も身近な公共施設は学校である。児童には、学校生活を営む中で、少しずつ公共の意識が育ってきている。ここでは、学校からさらに活動の範囲を広げ、身の回りには ものがあることやそれを 人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、 利用できるようなことを目指している。

	A	B	C
ア	決まった使い方をする	支えている	ルールやマナーを守って
イ	みんなで使う	いつも利用している	ルールやマナーを守って
ウ	決まった使い方をする	いつも利用している	安全に正しく
エ	みんなで使う	支えている	安全に正しく

問 9 「小学校学習指導要領」の「第 2 各学年の目標及び内容〔第 1 学年及び第 2 学年〕 2 内容

(3)には、「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」とある。そこで、児童に自分の住む町のよさや人々とのかかわりを学ばせるために「町探検」に出掛けることにした。この活動を進めるに当たっての教師の配慮事項として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 探検して見たり聞いたり発見したことを忘れないようにするために、いかなる場所や施設においても、持参した「探検カード」に気付いたことをその場ですぐに書き込むように指導する。
- イ 歩道の歩き方や信号の見方や横断歩道の渡り方など、安全に探検ができるように安全に関する指導をしっかりとる。
- ウ お店や施設などで児童がインタビューなどをする必要があるときは、探検の趣旨やねらいを伝えるとともに、相手の都合を事前に聞き、協力を依頼するようにする。
- エ 児童に探検をする際の約束やルールを考えさせ、約束やルールを基に実施するよう指導するとともに、児童に緊急連絡方法を伝える。

問10 「小学校学習指導要領」の「第 2 各学年の目標及び内容〔第 1 学年及び第 2 学年〕 2 内容

(9)には、「自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。」とある。そこで「大きくなった私」という学習活動を行うこととした。この活動を進めるに当たっての教師の配慮事項として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 児童の多様な活動や体験を通して、お世話になった人や育ててくれた人に感謝の気持ちをもたせることを中心に単元を構成する。
- イ 児童が比較しやすく、分かりやすいものにするため、事前に各家庭に写真や母子健康手帳などの準備を依頼し、同じ年頃を起点として振り返りを行う。
- ウ 1年間の成長を踏まえてこれからの成長への願いをもてるよう、原則として2年生の1学期の最初に単元を設定する。
- エ 入学当初に書いた自分の名前や絵、家族へのインタビューなど具体的な手掛かりを通して、過去の自分と現在の自分とを比較することのできる活動を中心に単元を構成する。

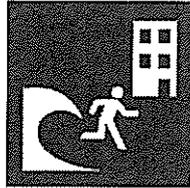
問11 通学路や町探検などにおける児童の安全への意識を高めるため、町で見かける道路標識や看板等とその意味について指導することとした。次の①～④は道路標識や看板等とその意味を示したものである。①～④のうち、道路標識や看板等とその意味の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔道路標識や看板等〕

①



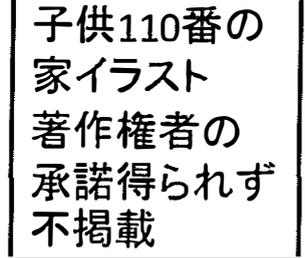
②



③



④



〔道路標識や看板等の示す意味〕

- ① 災害の危険性があるため避難した住民等を災害の危険性がなくなるまでに必要な間滞在させ、又は災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設であることを示す。
- ② 津波浸水予想区域内の住民が、地震によって発生する津波の衝撃や浸水した水から身体を守るため、一時的に高所に避難するための人工構造物であることを示す。
- ③ 学校、幼稚園、保育所等があるため時速 20 km 以内で通行する必要があることを示す。
- ④ 犯罪被害に遭い、又は遭いそうになって助けを求めた子供を保護し、警察への通報等を行う民家等であることを示す。

ア ①と②

イ ②と③

ウ ②と④

エ ③と④

問12 児童に各家庭で家族の一員として行う「自分の仕事」として、家庭にて洗濯、配膳、掃除を行う課題を与えた。洗濯、配膳、掃除の仕方として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ズボンを干すときは、手でたたいてしわを伸ばした上で、胴回りを開くようにしてピンチハンガーに挟んで干す。

イ 一汁三菜の和食の配膳を行うときは、一番手前に箸を、手前から向かって右に茶碗、左に汁椀を置き、その奥側の右に主菜、左に副菜、真ん中に副々菜を置く。

ウ むらした雑巾を絞るときは、雑巾を筒型に丸め、両手の甲を上にして横向きに持ち、強くもむ。

エ 雑巾で板目の床を拭くときは、雑巾を手でしっかり押さえ、板と板との合わせ目に対して垂直方向に拭く。

問13 身近な自然に関心を持ち、直接働きかける学習の一環として、コオロギやスズムシを飼うことにした。コオロギやスズムシの飼育方法として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア えさは土の上に直接置かず、入れ物に入れたり串に刺したりする。

イ カピヤ病気を防ぐために、土は日光消毒してから使う。

ウ 土には、毎日霧吹きで湿り気を与えるようにする。

エ 煮干しやかťお節などは、においがしたり腐ったりしやすいので与えない。

問14 春に身近な自然を観察して四季の変化に気付かせるため、児童にいろいろな植物を活用した遊びを工夫させることとした。植物と、その植物を使って行う遊びの組合せとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	音出し遊び	草相撲・つなぎ目当て	冠・指輪づくり
ア	タンポポ、レンギョウ	サクラ、カラスノエンドウ	レンゲ、シロツメクサ
イ	ナズナ、スズメノテッポウ	オオバコ、ツクシ	レンゲ、シロツメクサ
ウ	タンポポ、レンギョウ	オオバコ、ツクシ	ササ、クズ
エ	ナズナ、スズメノテッポウ	サクラ、カラスノエンドウ	ササ、クズ

問15 冬に身近な自然を観察する学習活動を設定することとした。冬の植物や昆虫について述べたものとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 冬に咲く花として、サザンカ、ヤツデ、シクラメンなどがある。
- イ ロゼット状で冬を越すものとして、タンポポ、ナズナ、ハルジオンなどがある。
- ウ 泥や土の中で冬越しをする生き物として、ザリガニ、カエル、トカゲなどがある。
- エ 落ち葉の下で冬越しをする昆虫として、カマキリ、カブトムシ、コオロギなどがある。

問16 季節や地域の行事にかかわる活動として、家庭において「七草がゆ」を食する課題を設定することとした。「七草がゆ」についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「七草がゆ」は、江戸時代に中国から日本に伝えられた風習で、万病邪気を除くものといわれてきた。
- イ 「七草がゆ」は、胃腸を休める食生活上の効用があるといわれている。
- ウ 「七草」とは、ナズナ、ゴギョウ、ゴボウ、ハコベ、ホトケノザ、スズナ、スズシロである。
- エ 「七草がゆ」は、1月8日に食べるものとされている。

問17 身近な自然を観察するために、四季に応じて近くの野原や公園に出掛け、自然と十分にかかわる活動を設定することとした。この際、毒をもつため児童が留意して扱うべき植物を、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア アケビ
- イ クチナシ
- ウ ヨウシュヤマゴボウ
- エ アキグミ

問18 遊びに使うものを工夫して作るため、紙を切ったり接着したりするなどの活動をするとき、道具の使い方として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア はさみで円い形を切るときは、はさみを動かして切るようにする。

イ カッターナイフでラップの芯やトイレトーパーの芯を切るときは、芯とカッターナイフを同じ向きに動かすようにする。

ウ カッターナイフで紙などを切るときは、刃を十分に出し、刃を立てて切るようにする。

エ 千枚通しで穴を開けるときは、厚い雑誌や、ぬれ雑巾を下に敷いて開けるようにする。

問19 秋になって、周りの木々の葉の色が変わってきたので、色々な葉を集めて遊ぶことにした。葉の色が変わる原因として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 寒くなると、葉の中の葉緑素が分解され緑色が薄くなり、もともとある黄色い色素があらわれたり赤い色素が作られたりするために葉の色が変わる。

イ 寒くなると、葉の付け根のところが詰まってしまう、葉の中の葉緑素が赤や黄色の色素に変質するため葉の色が変わる。

ウ 寒くなると、木の幹の管が細くなって葉に栄養が行き渡らなくなるので葉の色が変わる。

エ 寒くなると、木の根が水分を吸い取らなくなり、葉が乾燥するので葉の色が変わる。

問20 アサガオの栽培をするために種をまくことにした。アサガオの種まきの方法として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 種をまくための穴は1～2 cm くらいの深さとし、種の丸い方を上にしてまく。

イ 種をまくための穴は4～5 cm くらいの深さとし、種の丸い方を上にしてまく。

ウ 種をまくための穴は1～2 cm くらいの深さとし、種の丸い方を下にしてまく。

エ 種をまくための穴は4～5 cm くらいの深さとし、種の丸い方を下にしてまく。